

株式会社メディセオ
日本石油輸送株式会社
日本フレートライナー株式会社

31ftスーパーURコンテナ2個新造 医薬品を往復輸送

医薬品・医療機器などの卸売業を行う㈱メディセオは、首都圏～北海道間の幹線輸送に日本石油輸送㈱(JOT)の31ftスーパーURコンテナを導入した。同社は2021年に首都圏～東北の幹線輸送で12ftコンテナの運用を開始。2023年にはメディバルグループ名をラッピングした12ftコンテナを導入し、首都圏～関西間でも鉄道利用を始めた。31ftコンテナの投入は今回が初めてで、この取り組みは国土交通省の総合効率化計画に認定され「モーダルシフト加速化緊急対策事業」に採択されている。

メディバルグループの医療用医薬品等卸売事業の物流機能を担うメディセオの常務取締役ロジスティクス担当兼㈱メディスケットの代表取締役若菜純社長、メディスケット医薬事業本部磯田智本部長、本告智洋シニアアドバイザーと、JOT

コンテナ部宮澤光マネージャー、河村佳紀マネージャー、利用運送事業者の日本フレートライナー㈱(日本FL)営業部村上克己課長に聞いた。



左からJOTの河村マネージャー・宮澤マネージャー、メディスケットの本告シニアアドバイザー・磯田本部長・メディセオ常務取締役ロジスティクス担当兼メディスケット若菜社長・今井部長・ハ銀副センター長・古武マネージャー、日本FLの村上課長

31ftコンテナ導入の背景や目的は

若菜 私たちが鉄道利用、いわゆるモーダルシフトを導入した背景には、二つの大きな社会的課題があります。一つは環境負荷の低減、もう一つが「2024年問題」に象徴される深刻な労働力不足への対応です。特に課題となっていたのが、首都圏と北海道を結ぶ長距離輸送ルートです。従来、この区間は10tトラックとフェリーを組み合わせで輸送していましたが、「働き方改革関連法」の適用により、ドライバーの労働時間に厳格な制約が課せられました。これにより乗務員2名体制や中継輸送などの対応が不可欠なことから、従来の輸送体制の維持が困難となり、抜本的な見直しを迫られていたのです。

この課題を解決すべく、トラック輸送から鉄道輸送への転換を決断しました。実現にあたり、JOTさま・日本FLさま・JR貨物さまという各分野のプロフェッショナルの皆さまにご相談し、多大なご協力をいただきました。協議を重ねた結果、首都圏の隅田川駅と札幌(夕)を結ぶ区間で週2便という貴重な鉄道輸送枠をいただくことができました。



メディバルグループの31ftスーパーURコンテナ

ただし、週2便という限られた機会に従来と同等以上の貨物量を確保するには、輸送効率の最大化が不可欠でした。そこで各社のご提案を踏まえ、12ftコンテナの約3倍の積載容量を持つ31ftコンテナを新たに2個導入し、安定的かつ効率的な輸送の実現へと舵を切りました。

導入したコンテナの特徴は

若菜 これまでの12ftコンテナでは、現場作業で大きな課題がありました。それは積み付け作業時の温度管理です。医薬品のように厳格な温度管理を必要とする場合、夏の暑さや冬の寒さなど外気温の影響を直接受ける環境で作業することは、品質管理上の長年の懸案でした。

今回導入した新たな31ftコンテナでは、その点大きく改善しています。コンテナ後部が観音扉のように大きく開くため、倉庫の出荷バースに直接ドッキングさせることが可能になりました。その結果、梱包された商品が外気に触れることなく積み込めるようになりました。

宮澤 高機能な断熱材を壁面に使用したスーパーURIは保温・保冷性に優れ、温度管理が必要な幅広い品目に対応可能で、食料工業品を中心に、低温で固まる塗料などの輸送にも活用されています。31ftタイプは床面にジョロダールをオプションで装備しており、ほとんどのお客さまにご利用いただいています。一方で高さ重視するニーズに応え、フラットな状態でも提供して



埼玉ALCの出荷バースに接車



荷揃えした札幌ALC向け製品とコンテナ内部



ジョロダールで製品をコンテナの奥へ

おり、用途に応じた選択が可能です。

本告 新しい31ftコンテナの床面には、ジョロダールを装備しました。これにより、従来は手荷役やハンドフォークリフトを使って行っていた重作業が不要となり、荷物をスムーズにコンテナの奥まで滑らせるように送り込めるようになりました。現場の負担は大幅に軽減され、作業環境は改善されました。

往復輸送の概要を

本告 埼玉ALC* (埼玉県三郷市)と札幌ALC (北海道札幌市)間を31ftコンテナが週最大2往復します。曜日は固定せず、2カ月前の20日までに1カ月分の輸送計画を日本FLさまに提出する運用としています。イレギュラーにも対応できるよう、余裕あるスケジュールを取り決めました。

*ALC (Area Logistics Center): 医療用医薬品や医療材料等を取り扱う高機能物流センター

村上 集配トラックは埼玉ALCを13時に出発し、札幌行き列車が1日4～5本ある隅田川駅へ向かいます。通常21時発の3059列車で札幌(夕)に翌日夕方に到着、翌々日7時半に札幌ALCへ納品します。もし列車が半日以上遅れても納期に間に合う体制で、さらに遅延した場合は「何時までなら当日配達」「それ以降は翌日便と一緒に配達」といった対応方針を事前に整理しました。

磯田 北海道発のコンテナは今後、最大限に活用していきます。現地に工場をお持ちの製薬企業の製品をお預かりするほか、航空便で使った運送資材なども一緒に返送しています。

私たちの根底にあるのは、「平時・有事を問わず、医薬品を確実にお届けする」という、医薬品物流事業者としての大切な使命です。そのためには、特定の輸送手段に固執せず、状況に応じて航空便の「スピード」、鉄道や船の「輸送量」、トラックの「機動力」といった各モードの特性を最大限に生かし、最適に使い分けることが不可欠だと考えています。

環境負荷の削減効果は

若菜 今回の鉄道輸送への転換は、環境負荷の低減という面でも大きな成果を上げています。以前から取り組んできた埼玉ALCから東北ALC(岩手県花巻市)、阪神ALC(兵庫県西宮市)へのモーダルシフトに、今年4月から札幌ALCへのルートが新たに加わりました。これら3つの主要幹線ルートを合わせると、従来のトラック輸送に比べ、年間のCO₂排出量を約310t、率にして約74%も削減できると試算しています。これは、企業としての社会的責任を果たす上で、非常に意義のある数字だと考えています。

コンテナの外装デザインについて

若菜 実は、このコンテナにはちょっとしたこだわりがあり、グループ社員のオリジナルデザインを採用しています。12ftコンテナは、目にする機会の多い当社の納品箱をモチーフにしています。今回の31ftコンテナは私たちの事業そのものである「医療と健康、美」を象徴する想いと、私たちが目指す姿である「[[医療と健康、美]を広げ、支え、つなぐ 健康応援オーケストラ」というメッセージを表現しています。

全4種類のデザインがあり、これらのコンテナが「単なる輸送器材」としてではなく、「私たちの使命を運び存在」として全国を駆け巡る「走る広告塔」になってほしいと願っています。そして、私たちメディバルグループが掲げる「この国で、薬を届けるという使命。」を、より多くの方に知っていただくきっかけになれば、これほどうれしいことはありません。

河村 2023年に5個製作した12ftラッピングコンテナは広く認知され、医薬品関連の輸送やラッピングコンテナに関するお問い合わせをいただきました。12ftタイプは現在8個が稼働中で、年度内に10個へ拡大予定です。新しい31ftタイプにはどのような反応が寄せられるか、非常に楽しみにしています。



メディバルグループの12ftコンテナ

今後の展望を教えてください

若菜 モーダルシフトは、環境問題や「2024年問題」に象徴される労働力不足などの社会課題への対策として、重要性がより高まっています。加えて、長距離輸送における燃料費や人件費の削減といった経営上のメリットも期待できます。

この取り組みを加速させるため、来年度には31ftコンテナを増備し、関西の主要ルートでの運用開始も視野に入れています。将来的には、製薬企業と私たち卸が業界の垣根を越えて連携する「共同輸送」の実現も検討中です。その基盤として、関係各社がリアルタイムで輸送状況を共有できるデジタルプラットフォームの構築は不可欠です。これにより輸送全体の効率を抜本的に向上させ、遅延リスクを低減させることで、モーダルシフトを一層推進し、未来の医薬品物流を支える持続可能なサプライチェーンを構築していきたいと思っています。